

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年8月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	松風の里
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52番地3 電話 099-472-0911
自己評価作成日	令和4年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス対策の為、ご家族の面会は玄関にipadを設置しリモート面会を行っている。ご家族もリモート面会の方法に慣れてきて気軽に使用できるようになってきている。また、各階にipadを購入し普段から使用する事で利用者も機械に慣れてきている。ヘッドフォンで音楽を聞き、好きな動画を見て楽しんでおり、その様子をご家族に伝えている。

毎月発行する松風の里便りや運営推進会議の議事録でGHの様子やヒヤリハット報告を行い、出来る限り情報発信を行っている。

敷地内に同法人の医院を併設している。医療連携を図るためGH看護師が毎週利用者全員の健康状態をチェックしている。体調不良や緊急時はすぐに医院に連絡を入れ早期受診の体制が整っている。職員に看護師や准看護師の免許保有者が多いため医療面での対応が充実している。

介護職員処遇改善加算と介護職員等特定処遇改善加算を算定し給与面での安定と、希望休には制限を設けずプライベートも大切にする事で職員が働きやすい環境を整え職員の定着を図っている。

今年度は、年に3回外部講師を依頼し、自施設で全員参加の職員研修を計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・同敷地内に母体の協力医療機関があり、看護師の資格者も多く終末期の対応ができ、利用者や家族も安心している。
- ・面会は新型コロナ対策に配慮して、家族の面会も玄関でリモートで会話している。表情やしぐさで職員も立ち会える時は要望など受けている。
- ・「松風の里便り」を毎月、郵送している。家族も便りを楽しみにしているので、グループホーム内で行われる行事やレクリエーション、バイキング昼食など食事風景等の雰囲気写真を写真で掲載している。
- ・「松風の里便り」の他に担当者が一人ひとりに2ヶ月に1回、その人中心の写真を含めて活動風景などのお便りを送っている。
- ・地域との関係を大切にして、食材や日用品などを地域の商店から購入している。
- ・災害対策において、将来的に災害の時、地域の若い人達に対応を繋いでいけるように、町内会で話し合い、地域ぐるみで取り組んでいくことを検討している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	松風の里全体の理念として「至誠」を掲げ、ホームの玄関に掲示し職員全員が周知出来るようしてある。また、各ユニット毎の理念もあり、理念の実践に向けて職員が介護出来るように、リビングの良く見える位置に掲げてある。	事業所独自の理念を新規作成し、玄関に掲示しユニットごとにも掲示している。パンフレットにも掲載している。申し送り時に唱和し、カンファレンス時に振り返り、理念に沿って支援できるようにサービス向上に向けて検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事なども中止となり、地域の方々となかなか交流する機会が持てない状況である。六月坂集落に加入し、町内会からの回覧板や市報を閲覧している。魚屋や電気屋など地域の商店街を利用して買い物をしている。	自治会に加入し、回覧板や市報で地域情報を得、地域情報を毎日、市がコロナ情報、災害などを放送している。コロナ禍で地域行事やボランティアの受け入れも中止となっている。地域交流は地域の商店での買い物や屋上からの駅伝応援等を行っている。地域から野菜等の差し入れがある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍の為、地域の方を招いての運営推進会議の開催が難しい状況である。運営推進会議のメンバーに地域の方がおられる為、推進会議議事録として施設の様子を送付し、可能な限り情報の発信に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍の為、運営推進会議は書面での開催となっている。施設の様子やヒヤリハットなどの報告書を送付している。返信用ハガキを同封し、意見や要望を頂いている。頂いた意見や要望は印刷し、各ユニットへ配布し職員も目を通し、サービスの向上に繋がるように努めている。</p>	<p>会議はコロナ禍で、2ヶ月に1回の開催を行い書面会議である。施設の現状を報告し返信用の葉書とともに送付し、委員からの意見や要望を得ている。最近はコロナ関係についての話題が多く、面会制限をどうしているかなど、全職員が情報を共有しサービスに活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>分からない事や相談事は、その都度介護保険係に電話をし意見を伺っている。また、運営推進会議メンバーに介護保険係の方がいるので、運営推進会議報告書の返信用ハガキに意見を頂いている。</p>	<p>市の担当者とは運営推進会議の葉書に意見を頂いたり、電話や窓口に訪問して現状や課題を相談してアドバイスをもらい情報は共有している。研修案内は届いているが中止になっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>2回/年、1・7月にカンファレンスの中で勉強会を行っている。職員全員参加し、身体拘束について学びケアの中で身体拘束が行われていないか再確認している。また、日々のお世話が拘束に当たらないか考え、話し合いながら支援している。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開いている。</p>	<p>法人の「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回開催し参加している。事業所でも年1回外部研修を受け、指針を基に勉強会を年1回内部研修を実施している。身体拘束の具体的な行為を正しく理解し、施錠や言葉の拘束を含め、「身体拘束は絶対しない」を合言葉に拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2回/年、2・8月にカンファレンスで勉強会を行なっている。職員全員参加し、その中で虐待について学び、またケアの振り返りを行い、支援に繋げている。また、職員同士何でも言い合えるような関係性を築き、その都度注意し合えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1回/年、8月にカンファレンスで権利擁護の勉強会を行なっている。また、利用者の中に成年後見人制度を利用されている方もいるので、職員全員に周知し円滑に支援出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、契約書に添って契約内容の説明を行い、その中で質問や不安な事等話を聞き答えるようにしている。その上で納得して頂きサイン・捺印をして頂いている。また、疑問点などあればその都度説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に1回運営推進会議報告書を全ての家族へ送付し、返信用ハガキも同封している。ハガキには意見を記入する欄が設けてあり、毎回様々な内容のコメントを頂いている。利用者には、日々の会話の中で話を伺い、それらの意見を参考にし運営に反映出来るように努めている。	利用者には日常の会話の中やくつろいでいる時に希望や意見を聞き取りしている。家族には電話や面会時に意見を聞き、便りに毎月担当者が言葉を添えて、送付している。2ヶ月に1回運営推進会議資料を送付し返信用はがきで意見を得ている。遠方家族からのリモート面会の要望に応じて実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスの時に職員全員に意見を求め、何かあれば上申するようにしている。また、管理者は職員の話聞き、必要に応じて上司へ報告し運営会議に提案するようにしている。運営会議の内容は、カンファレンスやメールで職員へ報告している。	全体的に話しやすい相談しやすい雰囲気であり職員同士も人間関係が良好な状況にある。カンファレンス時に職員全員の意見を聞き、出された意見は必要に応じて法人に報告し反映に努めている。個人相談はその都度受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員1人1人の生活環境や年齢などに応じ勤務調整を行なっている。また、休み希望数に制限をもうけず可能な限り希望を叶え、働く意欲の向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加が少ない為、外部講師を招いての勉強会を今年3回計画している。また、新人職員には担当職員をつけ、他職員もペアになり1回/年お互いに評価をし合っている。毎月、勉強会も計画しており、カンファレンス内で職員勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修等少ない中参加できた時には他施設の方と交流を持ち情報交換に努めている。収集した情報は、施設へ持ち帰り他職員へ伝達しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行なっている。本人、家族から生活の様子や身体的状態、入居するにあたり不安な事や要望など話を聞くようにしている。施設の様子を伝えながら、疑問や不安が解消され安心して入居して頂けるように話をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問時、収集した情報をもとに暫定ケアプランを作成し、入居時に担当者会議を行い家族へ説明するようにしている。同時に契約書の説明も行ない、その中で再度家族の不安や要望など話を聞き、少しでも安心して入居して頂けるよう話をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問と入居時の聞き取りから、今、本人・家族が望むここでの生活を見極め支援するように心掛けている。入居後約一ヶ月をめどに、生活の様子や関りを通してケアプランの見直しを行い、必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、調理の方法を伺ったり、洗濯物たたみや新聞折りなど、その方の状態に合わせたお手伝いを一緒にして頂いてる。またテレビ鑑賞やゲームを職員と行い、会話をする時間を沢山つくるなど、家庭的な雰囲気づくりを心掛け、良い関係性が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の生活歴や性格、嗜好品などを伺いお世話を繋げている。また、必要な物があれば家族へ相談し、自宅にある物を持って来てもらったり、買って来て頂いている。面会（リモート）時には、本人の状態など説明し、施設での様子が分かるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で、面会制限があり外出も難しい状況が続いている。リモート面会やテレビ通話、松風の里便りやお手紙の発送など可能な限り関係性が途切れないように努めている。	面会は玄関とユニットをつないだリモート面会で、家族との電話や手紙での交流継続を行っている。家族には毎月「松風の里便り」を送付している。希望される方は訪問美容も可能である。外出は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格を把握し、リビングでの席位置を決めている。また、入居の長い方同士お友達関係にある方は居室を訪問されたり、寝たきりの方も車椅子へ離床して頂きリビングで過ごされ、他の方々との交流を持ってもらっている。利用者同士トラブルにならないように見守りもしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族が立ち寄られる事があれば話を聞き、必要に応じて相談出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前訪問時・ケアプラン見直し毎に、本人・家族の要望を伺いケアプランに記し全職員が周知出来るようにしている。また、日常会話や支援の中で本人の思いを探り、他職員へも伝達するようにしている。思いを伝えられない方は、家族から話を聞いたりし、その方の思いに寄り添い意向や希望を推測するようにしている。	日々の暮らしの中で思いや意向を把握している。特記事項の経過記録を見て細かく解るようにしている。ホールなどで個人的に悩まずみんながいるとき終末期の話もしてみんなで思いを言い合い盛り上がっている。困難な場合は表情やしぐさ・家族の情報から、職員で話し合い本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問時、自宅の様子を拝見し、家族・本人・施設職員からの聞き取りを行っている。また介護サマリーや本人との日常会話の中から情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅におられた頃の生活パターンや他施設での生活の様子を参考にし、一人一人の一日の過ごし方や、支援を通してその方の有する残存機能や心身状態の把握をするように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、計画作成担当者より家族から伺った意見や要望等を他職員へ伝達している。またカンファレンス前に受持ちスタッフがモニタリングを行い、利用者の今の課題や思いを他職員に伝えている。それを踏まえ全職員で今後のケア内容について話し合いケアの決定を行っている。6ヶ月毎の担当者会議、コロナは禍の為書面での開催となっている。あらかじめ電話で家族の要望を伺いケアプランに反映させている。また、利用者に状態の変化があれば、その都度見直しを行い、必要があれば家族へ連絡し区分変更も行っている。	本人や家族の要望を聞き、医師の意見や介護記録や特記事項、職員の意見を総合して、現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月に1回担当者会議時や必要時に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に台帳があり、各勤務帯で色を変え記録を行なっている。台帳にはケアプランが挟み込んであり、ケアプランに基づいて記録をするようにしている。受診記録は緑で書き、医療連携看護師の記録は別紙があるなど、分かりやすくしてある。また、個別に月単位のケアチェック表もありバイタルサイン・食事・排泄・ケア内容のチェックを毎日行っている。ヒヤリハットは別紙があり、全職員サインをするようにしている。月末には記録を見ながらモニタリングを行い、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望があれば、施設職員が散髪を行なっている。また、必要時は他科受診の付き添いや、可能な範囲での買い物代行を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域へ出て行く事が難しい状況である。出前行事時は近隣のお店からオードブルをとったり、月に3日は地域の魚屋さんからお刺身やフライ等を頼んでいる。職員は、地域の様子を会話の中で伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族に確認し、併設されている医院をかかりつけ医にしている。現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、定期・臨時受診ともリモートで行っているが必要時にはホーム看護師が付き添い受診している。また、急変時には医院との連携を図り、早急に対応出来るようにしており、その都度家族への連絡も行い様子を報告している。	入居時かかりつけ医の確認をして希望通りの支援をしている。コロナ禍の為定期・臨時受診ともリモートで行い、日常健康管理や、緊急時の24時間医療連携体制もある。他科受診は家族または職員が同行する。歯科は往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の変化に気付いた時は、その都度看護職員へ伝え相談している。カンファスで夜間や日常の様子等を話し合い、次回の受診時に医師へ報告している。介護職員は、看護職員から基礎的な知識をその都度学びお世話に活かせるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には施設職員が付き添い、病院へ介護サマリーと医院からの診療情報提供書を渡し、必要な情報を伝えるようにしている。また、入院が長くなる時には職員が訪問し状況を伺い、退院時期など病院との連携を図りながら調整するようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、契約書の説明と共に「重度化した場合の対応に係る指針・看取り指針」の中で話している。また、終末期に関する意思確認書にて終末期の方向性についても確認している。状態に応じてその都度、かかりつけ医からムンテラをしてもらい、今後の方針について話し合いを行っている。本人・家族の意思確認を行いながら介護看取り計画書を作成し、全職員周知した上で支援している。</p>	<p>「重度化した場合の対応に係る指針・看取り指針」を説明し、同意書をもっている。終末期に関する意見確認書にて終末期の方向性も確認している。看護師の充分の体制で家族も安心して看取りを行っている。状態変化に伴いその都度かかりつけ医から家族に説明があり意向を確認しながら希望に沿って支援している。看取りの経験がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>介護職員は看護職員から基礎的な知識を学び、変化があればすぐに勤務の看護職員へ報告するようにしている。吸引器・アンビューバック・AEDの位置を全職員周知し、いつでも持って来れるようにしている。また、事故傷病発生時のフローチャートを作成し、電話機の近くに掲示してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内での消防・避難訓練を2回/年実施している。スプリンクラーや防火扉、消火栓・消火器の設備があり、訓練時使用している。メガホン、ライト付きヘルメット・マスクも準備してある。また避難経路、非常口付近には物を置かずいつでも通れるようにしてある。</p>	<p>年1回消防署の立会いの下、利用者と職員で消防・避難訓練を実施し、自主訓練を年1回行っている。コロナ禍の為、地域住民の参加は自粛している。災害時の水・ごはん・缶詰・レトルト食品・カップラーメン等を通常3日分備えている。スプリンクラーや防火扉、避難経路の確保、メガホンやライト付きヘルメット、発電機がある。地域ぐるみで災害対策ができるように話し合いをして検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊重し、1人1人に応じた声掛けを行っている。また、排泄や入浴等はプライバシーや羞恥心に配慮し、その場に応じて小さい声や声掛けの仕方を工夫するなど、プライドを傷つけないようにしている。	研修を行い人格と尊厳を大切に、高齢者虐待について本人が嫌がるような事や声かけをしてはいけないことを学んでいる。一方的な話しにならないように利用者の気持ちを聞いて対応している。入浴や排泄時の支援方法や声掛けに注意している。申し送りは朝は利用者が居室にいるときに、夕方は音楽を鳴らして行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	離床・誘導・排泄・入浴・食事などお世話をする際には、利用者へ声掛けし意思確認をした上で介助を行うようにしている。出来る方は、入浴の着替えをご自分で選び準備して頂いたり、ティタイムでは、好みのお菓子を選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人個々の生活背景を把握し、その方に合わせた生活リズムを支援している。気持ちを尊重し、リビングや居室等自由に過ごして頂き、就寝時間もその方に合わせて就寝して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自宅から持って来て頂いた衣装を着て頂き、必要な時には家族へお願いし、好みの服を買ってきてもらっている。職員による散髪時には、本人へ尋ねながら好みの髪型になるように努めている。また、望まれる時には化粧水をつけて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族から好きな物や嫌いな物を伺い、いつもの食事やバイキング、出前などに取り入れている。お鍋を利用して、目の前で調理したり、蕎麦打ちを見てもらい楽しんで頂いている。また、出来る方には野菜（竹の子やツツワなど）の皮むきを手伝ってもらったり、調理方法を聞き参考にしたり味見をお願いしたりしている。	献立は職員が作成し交代で調理している。利用者の嗜好を聞き、食形態に応じて提供している。おせちは取り寄せ、土用の丑の日の鰻、季節の行事食、バイキング、出前、鍋料理、そば打ち、屋上での茶話会を楽しんでいる。皮むきやお盆ふき等を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の機能に応じて、キザミ食やブレンダー食、ゼリー食といった食事形態で提供している。水分の摂れない方は、甘くしたりお茶ゼリーにするなどこまめな水分補給に努めている。一回の摂取量が少ない方は、補食として間食をして頂いたり、ティタイムでの水分補給も毎回してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方は御自分で御自分で出来ない方は職員が介助で口腔ケアを行なっている。ブラッシングや、ガーゼによるケアなどその方に応じたケア方法を選んでいる。気になることは、歯科衛生士の資格を持っている職員へ相談し支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の機能に応じた排泄介助を行なっている。1人1人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ったり、行かれない方には声掛けを行っている。出来る限りトイレでの排泄を支援しており、尿意の無い方でも時間でトイレ誘導し排泄して頂いている。また、職員間で話し合いを行い各個人に応じたオムツ選びを行っている。	排泄記録から排泄パターンを職員で共有し声かけして周りに気付かれないようにトイレ誘導している。立位がとれるならば、声掛け誘導して基本はトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する場合もある。排泄用品も個々に合わせて使用している。入居後オムツから改善した利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各個人の排泄パターンを把握し、排便コントロールを行なっている。歩行や車椅子の方は可能な範囲で動いて頂き、寝たきりの方は腹部マッサージやしっかり水分を摂って頂くようにしている。また、朝食時の牛乳や植物性の食品を使用したり、主治医へ相談し内服薬を処方してもらったりしてる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	冷暖房を使用し、入浴前から室内の温度を調整している。また音楽を流し楽しい雰囲気の中で入浴して頂いたり、声掛けし会話をたくさんするようにしている。1人1人しっかりお湯に浸かって頂いている。嫌がられる方は、タイミングをみたり、声掛けの工夫や時間をずらすなどしたり、また入浴したい方は日にちを変更し入浴してもらったり可能な限り対応している。	入浴は週3回午前中の中の入浴である。エアコンを使用し、音楽をかけ入浴が楽しい雰囲気になるように工夫している。一人ひとり湯船に入っている。入浴中の会話も弾んでいる。拒否の利用者はいない。状況によってシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンや状態に応じて、日中の休息をとったり就寝して頂いている。また、体力に応じて居室で休んで頂くなどその時々で対応している。就寝されるまではCDで音楽を聴かれたり、テレビ鑑賞されたりと自由に過ごされ、季節に応じて室温調整も行ない快適に気持ち良く入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット内に看護師資格者がおり、有資格者を中心に病院受診支援を行っている。内服薬については、有資格者から他職員へ伝え服薬管理を行なっている。また、服薬による変化などは有資格者へ報告し受診時医師へ伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活背景を知り、その方の能力に応じた楽しみ等を持って頂いている。お手伝いとして、洗濯物たたみや野菜の皮むき、料理の味見を職員と一緒にしたり、また、楽しみとして音楽を聴かれたり、テレビ鑑賞や塗り絵、本読み・文字書きなどご本人様と話をしながら取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出する事が難しく、医院受診もリモートで行っており、外へ出る機会が持てない状況である。その中、少しでも外の空気を吸って頂く為、屋上での茶話会や苗植えなど屋上での行事を企画したり、ユニットのベランダへ出て外の景色を見たり日光浴をして頂いている。また、初詣として鳥居や賽銭箱、おみくじ等神社の雰囲気をつくり楽しんで頂くなど各月の行事に力を入れている。	近隣を散歩したり、受診の時に外の雰囲気や季節を車の中から眺めて職員と楽しく会話している。屋上で茶話会や駅伝応援、日光浴などを行い、ベランダでも外気浴をしている。初詣は外出しないで、手作りの鳥居や賽銭箱・おみくじで楽しんでい	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご本人でお金を持っておられる方はいない状況である。必要な物や欲しいものなどあれば、家族へお願いして購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される方は状況に応じて、家族へ確認し電話をして頂いている。また、家族から頂いた手紙やお便りをご本人に渡し読んでもらったり、面会はリモート面会を行っており、必要があれば家族の携帯でのリモート面会をしてもらうなど可能な限りの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策の為、換気を行ない室温湿度調整も行なっている。リビングには季節ごとに壁紙の飾りつけを行い、職員手作りの四季の編みぐるみを置いて、少しでも季節を感じて楽しんで頂いている。テーブルの席は、テレビを見られる方や会話をされる方など考慮し、トラブルなどあればその都度変更し居心地よく過ごして頂けるように支援している。廊下には各月ごとの行事の写真を掲示したり、廊下・トイレには手すりも設置している。また、トイレは夏場の日差しが強く暑さ対策の為扇風機を設置し遮光カーテンを使用している。	リビングは天井が高く広くて明るい。窓は少し開けて換気を行い、空気清浄器やシールドを設置し、感染予防も万全にしている。季節感のある飾り付け、廊下には行事写真を掲示し、テレビをゆっくり見れるように配置されている。日中は殆どの利用者がホールで過ごし、好みの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方同士、隣の席に座って頂いたり、あまり話したくない方などその方に合わせた席の位置を考慮している。ホールにはソファが置いてあり、自由に座りくつろがれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、馴染みの物を持って来て頂けるよう声掛けを行なっている。テレビや衣装棚、寝具、家族写真や御主人の遺影や位牌など職員と共に居室へ配置し落ち着ける空間になるように支援している。	居室にはベッド・洗面台・床頭台・戸棚・エアコンを設置している。寝具はリースと個人のものがある。個々にテレビや衣装だな・家族写真・遺影・位牌・本・小物などを持ち込み、プライバシーが守られ、のんびりと暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーを使用し移動される方が、安全に行動できるように物を置かず、また廊下やトイレには手すりを設置し起立しやすくしている。また、家族や本人の了解を得て居室入口に名前を貼り、御自分のお部屋が分かるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない